

## 平成 27 年度 第 2 回練馬区立生涯学習センター運営懇談会 会議録（概要）

- 1 日時 平成 28 年 3 月 18 日（金） 午後 3 時～4 時 20 分
- 2 場所 生涯学習センター 第 1 教室
- 3 出席者 川井会長、中島委員、長富委員、田村委員、尼子委員、小澤委員、岡本委員  
岩田委員（練馬区教育委員会事務局社会教育主事）  
（練馬区）文化・生涯学習課長  
（事務局）生涯学習センター所長、副所長、主事
- 4 欠席者 漆澤委員、井藤委員、津久井委員
- 5 傍聴者 0 名
- 6 次第
  - (1) 文化・生涯学習課長挨拶
  - (2) 議題
    - ① 平成 27 年度事業結果報告について
    - ② 平成 27 年度施設利用状況について
    - ③ 平成 28 年度事業計画について
- 7 その他
- 8 配布資料
  - 資料 1 平成 27 年度事業結果報告（平成 28 年 3 月事業終了分まで）
  - 資料 2 平成 27 年度施設利用実績（平成 28 年 2 月分まで）
  - 資料 3 平成 28 年度事業計画
  - 参考資料 生涯学習センターだより 第 64 号（平成 28 年 3 月発行）  
練馬区立生涯学習センター利用案内
- 9 会議の概要
  - (1) **文化・生涯学習課長挨拶**
    - 小金井文化・生涯学習課長挨拶
    - ・ 委員の 2 年間の任期が 3 月 31 日付で終了する。この間の懇談会委員としてのご協力に感謝する。
    - ・ 公民館時代を含めて、生涯学習センターでは、これまでさまざまな事業を展開

し、これらの事業の成果として、現在では区役所の各分野で講座等が実施される状況になっている。

- ・ 生涯学習センター分館では、平成 27 年度から En カレッジ地域講座を実施しており、学んだ成果として、地域貢献できるボランティア活動につながる講座に誘っている。
- ・ 生涯学習センター事業についても、28 年度は大きく変えないが 29 年度は En カレッジと一緒にしながら、各種サークルや文化団体に人をつなげていくような支援を充実する事業に大きく変えていく予定で検討している。
- ・ この中で、文化芸術関係の事業については、文化振興協会と役割分担しながら進めることとしている。
- ・ 本日は、以上のような視点を踏まえ 28 年度の事業計画案についてご意見を頂きたい。

## (2) 議題

### <1> 平成 27 年度事業結果報告

所長より資料 1 に基づき説明（内容省略）

### <2> 平成 27 年度施設利用実績

所長より資料 2 に基づき説明（内容省略）

<座長> ご質問、ご意見ある方はどうぞ。

<委員> 学びふれあい講座の開催時間は、夜間に開催している講座は何か。

<所長> 「時事問題を考える」のみ夜間開催である。

<委員> 利用率の低下をどのように受け止めているか。利用率は一つの指針ではあるが、それを上げていくことがよいのか、そうでないのか。問題があるなら手を打つ必要がある。

<所長> 利用率は上げたい。細かい分析はしていないが、今後、利用率向上の方策を考えていかなければならないと思っている。

<座長> 利用率低下には、分館ができたこととの関係があるのか。分館ができたことで、利用者が分散しているのではないか。

<所長> 分館との因果関係は特にないと考えているが、今後は分館とともに、人をつなぐ事業、地域貢献につながる事業を充実して利用率向上を図っていきたい。

<委員> 公民館の時には、講座を実施して自主サークルを作るということに力を注いできた。今はどうなのか。利用率の低下については、既存のサークルがなくなっても新しいサークルができていないことが原因ではないか。生涯学習センターとしては、新しいサークルを作ることに入れているのか。

<所長> 講座が終了して、結果的に新しいサークルができた事例はあるが、現在は、

公民館時代に行っていた働きかけとは少し異なっている。

<座長> 以前は、事業実施する場合、公民館の職員が新しく自主サークルを作る働きかけを行っていた。今は、講座のあとのフォローがない。事業が終わったら終わり、次につなぐ仕掛けがない。名簿や参加者の名前には一切触れられていない。個人情報等の問題があるのかもしれないが、事業をやればそれでいいのか。事業の講師を引き受けた際、どこまで次の活動へのつなぎを勧めていいのか、と考えたことがある。私もこのことは課題であると感じている。

<課長> 利用率の話から事業の実施方法に至る全般的なご意見を頂いた。区も区政改革で、各施設の稼働率を出して、検討していくこととなっている。区は、今後、区立施設の維持管理に年間で 200 億円程度必要になると予想している。高齢化、人口減少などの状況を踏まえると、維持が大変難しくなる。生涯学習センターにおいても単に貸館とするのか、生涯学習センターの機能は何なのかと、疑問を持たれてきていることも事実である。

これまで公民館活動としてサークル活動を奨励し、その成果として 350 くらいの生涯学習団体ができた。新たな自主サークルを作る支援をしなくても、今では生涯学習を行う自主サークルは 600 団体くらいある。ある意味サークルをどんどん作るという役割から、今あるサークルに新たに会員を勧誘する、代替わりをしていく、そういう役割が求められている。このため、これまで公民館時代に社会教育主事が担ってきたような働きかけは、今、生涯学習センターではやっていない。

これから超高齢化社会を迎えていくにあたって、30%以上が 65 歳以上になっていく。サークルに入って活動したい人たちも多いはず。これをつなげていくことが生涯学習センターの仕事であり、この方向性で 29 年度以降の事業を見直していく。

そのために、団体の支援、人をつなげる支援を充実していく。さまざまなサークルから選んで、加入してもらうような仕組みを考えている。利用率については、区内にココネリなど交通の利便性の良い施設などもできており、他の施設にも活動の場が広がったことも影響していると考えられる。駅に近いところは利用率が高く、交通の利便性が良くない施設は利用率が上がらない状況である。

<座長> 区の職員にはご苦労いただいていると思う。これからさらに私たちがやっている団体活動を後押ししてもらえるようなので、私たちも意見を言っていないといけない。区報はなかなか載せてもらえないが、区が行う PR の反響は大きい。定年後、何かやりたい、自分の活動を発表したいと思う人たちがいても、個人では発信方法が限られる。区が一斉に情報を提供できる仕組みがあるとありがたい。まずは、既存の団体情報などを発信していくことであるが、団体の自助努力だけでは限界がある。どんな方法があるか。各委員の意見を聞きたい。

<委員> 私たちの団体も人が入らないと継続できない状況にあり、会員を若返らせないといけないと考えている。若いといってもターゲットは定年退職の人たち。いかにサークルに呼び込むか。定年後、家に閉じこもってしまうような方をいかに見

つけて、どう声をかけていくか。タイミングなどが難しい。

<課長> 「アラカン」という言葉があるが、還暦を迎える年齢層の方たちをターゲットとした働きかけのひとつはEnカレッジ。地域貢献活動で元気になってもらうことを考えている。もうひとつはサークル活動で、文化的な活動で元気になってもらう。これは、大学でサークルの勧誘をするようなイメージの働きかけを考えている。この2本の柱で今後の生涯学習としてやって行こうと議論をしている。団体活動をしている皆さんに頑張ってもらい、一緒に寄り添ってやっていきたいと思っている。健康年齢を上げていきたい。

<座長> 私たちも区におんぶにだっこではいけないと思う。サークル活動をやっていれば人が来る時代ではない。どういう呼びかけをしたらいいのか。私たちもセンターを盛り立てるよう頑張らないと。

<委員> 高齢社会対策課で、健康診断、体力測定などの時にサークル活動につながる事業が始まる。介護予防の事業。このような他の部署の事業と連携して人をつなげていけばよいのではないか。

<座長> 同様の活動は、福祉分野をはじめ、区のさまざまな部署で行っているのではないかと思う。区の中でも連携して進めてほしい。つぎに28年度事業計画について説明をお願いしたい。

### <3> 平成28年度事業計画

所長より資料3に基づき説明（内容省略）

<所長> ここまで、さまざまなご意見を頂いた。生涯学習センターは、これからの10年を見据えて、生涯学習の使命を考えて再編をしていかなければならない。この使命は、団体支援、人づくり、社会貢献、情報発信を中心に担っていくことと考えている。生涯学習として学ぶ場は整ってきたが、これらの情報を提供できる仕組みを整えていく。28年度は事業を大きく変えないが、29年度に向けて新たな仕組みを作る検討している。

<座長> 何か平成28年度事業に対する要望はあるか。

<委員> 本当にたくさんの事業やって頂いていると思っている。すべての講座とは言わないが、ブレイクタイムを設けることや、講師の先生との意見交換できるような仕組みを考えてほしい。このような取組の中で、サークルが生まれることもあると思う。また、個人情報の問題も解決されるのではと思う。講座は与えられるだけで、聴くだけになりがち。発信が少ない。これを何とか参加者が発信できる仕組みにならないかなと思っていたところ、図らずもそのような話題になった。考えてみてほしい。

<委員> つなぎには、若い人と高齢者、地域間、サークル間といろいろなつなぎがある。郵便番号で参加者が少ない地域がある。地域間のつなぎを考えるなら、参加

しづらい地域の人にどう参加してもらうか。映画会の回数を減らすのであれば、ホールの空いた枠を利用してサークル間をつなぐ取組をしてみてもどうか。集団就職活動のようにブースを設けてサークル相談会をやってみてもよいと思う。つなぎの観点から、どんな情報が必要か、生涯学習センターとしてどのような情報が発信できるかと考えてみるとよいのではないかと思う。

<委員> 生涯学習に携わっている皆さんにいつも感謝している。サークルに若い人を入れたい。若いと言っても会社を定年退職で、これから何かやりたいという年代を考えている。私も区報はいつも全部目を通してているが、文化活動・スポーツ合わせて退職者向けにサークルの一日相談会のようなものを企画して、区報でお知らせしてみてもは。但し、区報で発信しても、自ら見に行こうとする人は多くない。誰かが誘って後押ししていかないといけないと思っている。そんな後押しができるなんでも相談所のようなものがあるのもいい。

<座長> これまで出た意見を参考にしてほしい。ただ、区にお任せするだけでなく、こちらも一緒に動かないといけない。福祉分野でも同様の取組を考えているが、一覧になっていないので全体としての動きがわからない。庁内の同様の取り組みをどこかでつなげられないか。そのとき、我々の意見はどのようにつながるか。定年退職の方これから増えてくる。皆いいものを持っているので、それを活かせるようにしたいと思う。

### (3) その他

<所長> センターだより、利用案内について簡単に説明する。センターだよりの裏表紙のページに分館事業の案内コーナーを作った。今後、分館とさらに連携していく。また、サークル活動の紹介、会員募集記事を募集して載せていく。団体支援としては、このほかにチラシ、ポスターなどの掲示も積極的に働きかけていく。センターの利用案内には、一時間単位利用の内容も載せたのでお目通し願いたい。

<委員> センターだよりにサークル案内を載せてもらえるのか。センターだよりはどのように入手できるのか。

<課長> センターだよりは2,000部程度作成し、区立施設において配布している。

<委員> センターだよりを区内の在宅介護支援センターにも置いてもらえないか。

<座長> 事務局、検討をお願いします。

<副座長> 本日は、ご多忙のところご出席頂き感謝する。

<座長> この2年間、委員の皆さまのご協力に感謝する。次回は、8月26日に開催となる。引き続きお願いする委員の方はご出席願いたい。